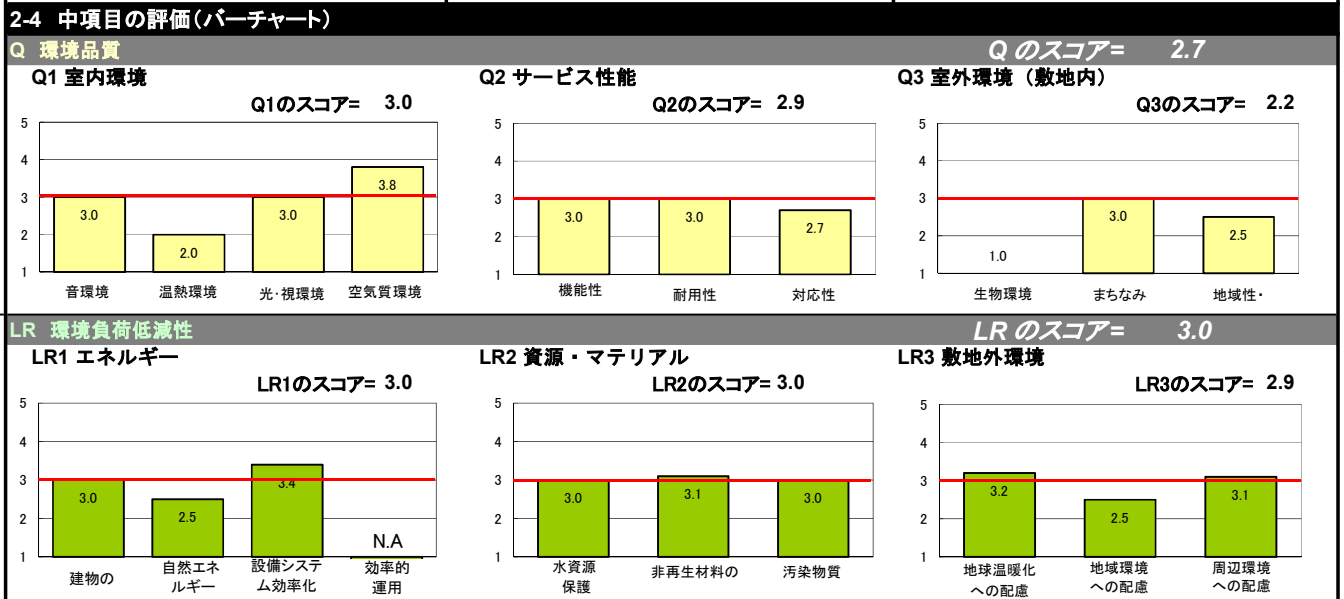
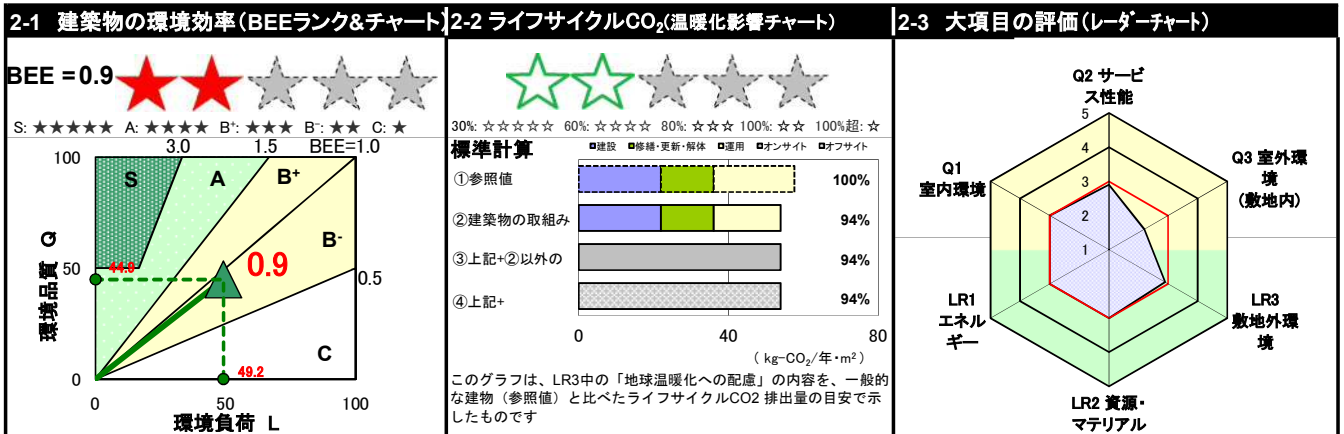


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14089

建築物名称	(仮称)ルーブル川崎貝塚二丁目B新築工事
建築主	株式会社TFD不動産販売 代表取締役 船間 隆行
建築物の所在地	川崎区貝塚二丁目5番3
設計者氏名、建築士事務所名	繁野 浩一 株式会社アクシス 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,881.92m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上12階
工事完了年月	平成29年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観		14089
建物名称	(仮称)ルーブル川崎貝塚二丁目B 新築工事	階数	地上12F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください
建設地	川崎市川崎区貝塚二丁目5番3	構造	RC造	
用途地域	近隣商業地域、第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	103 人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2017年1月 竣工	評価の実施日	2015年3月23日	
敷地面積	779 m ²	作成者	繁野浩一	
建築面積	290 m ²	確認日	2015年3月23日	
延床面積	2,882 m ²	確認者	繁野浩一	



CASBEE-川崎2011 (v.1.2)

(仮称)ルーブル川崎貝塚二丁目B 新築工事

14089

重点項目についての環境配慮概要

内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。	実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している。 周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。	1.8/4.3	2.1
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.6
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.3 外皮性能	品確法性能表示(温熱)等級3相当とした。	1.5/2.1	3.5
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備			
3 3.2 3.2.2 屋光制御	庇、カーテンによりグレアを制御した。		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している。 空地率を50%以上確保した。	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	省エネルギー対策等級3相当とした。	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	フロン・ハロンの使用を極力抑えた。	2.9/4.6	3.1
2 非再生性資源の使用量削減			
3 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	耐用年数を考慮し、使用材料を選定した。	0.3/0.5	3.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.4/3.9	3.1
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	雨水の流出抑制対策をした。	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している。 空地率を50%以上確保した。	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	省エネルギー対策等級3相当とした。	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.5**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要

内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。	実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の再利用	外構舗装をインターロッキングブロック仕上げとし、エコマーク商品を使用した。	0.8/1.4	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	省エネルギー対策等級3相当とした。	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEF-川崎2011年版 (仮称)ループル川崎員数200名日新築工事				欄に数値またはコメントを記入				14089	
スコアシート 実施設計段階									
配慮項目	G	W	R	H	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									2.7
Q1 室内環境						0.40			3.0
1 音環境									3.0
1.1 騒音									
1 室内騒音レベル								3.0	0.50
									0.50
1.2 遮音									0.50
1 開口部遮音性能								3.0	0.30
2 界壁遮音性能								3.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								3.0	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								3.0	0.20
1.3 吸音									
2 温熱環境									2.0
2.1 室温制御									0.50
1 室温								3.0	0.63
3 外皮性能		W						3.0	0.38
4 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御								1.0	0.20
2.3 空調方式								1.0	0.30
3 光・視環境									3.0
3.1 屋光利用									0.30
1 屋光率								3.0	0.50
2 方位別開口								1.0	0.30
3 屋光利用設備		W						3.0	0.20
3.2 グレア対策									0.30
2 屋光制御								4.0	1.00
3.3 照度								3.0	0.15
3.4 照明制御								3.0	0.25
4 空気質環境									3.8
4.1 発生源対策									0.63
1 化学汚染物質								4.0	1.00
4.2 換気									0.38
1 換気量								3.0	0.33
2 自然換気性能								5.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮								3.0	0.33
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御									

Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.9
1 機能性				3.0	0.40	3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	3.0	0.60	
1	広さ・収納性							
2	高度情報通信設備対応					3.0	1.00	
3	バリアフリー計画							
1.2 心理性・快適性				-	-	3.0	0.40	
1	広さ感・景観							
2	リフレッシュスペース					3.0	0.50	
3	内装計画							
1.3 維持管理				3.0	1.00			
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50			
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性				3.0	0.31			3.0
2.1 耐震・免震				3.0	0.48			
1	耐震性			3.0	0.80			
2	免震・制振性能			3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.33			
1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.23			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.23			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		3.0	0.09			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.08			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		5.0	0.15			
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.23			
2.4 信頼性				3.0	0.19			
1	空調・換気設備			3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20			
3	電気設備			3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備			3.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.7	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり						2.4	0.50	
1	階高のゆとり					2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ					3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00			
1	空調配管の更新性			3.0	0.17			
2	給排水管の更新性			3.0	0.17			
3	電気配線の更新性			3.0	0.11			
4	通信配線の更新性			3.0	0.11			
5	設備機器の更新性			3.0	0.22			
6	バックアップスペース			3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				G	W	H		1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H		2.0

LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.0
1 建物の熱負荷抑制				W	H			3.0
2 自然エネルギー利用								2.5
2.1 自然エネルギーの直接利用				W	H			2.0
2.2 自然エネルギーの変換利用				W	H			3.0
3 設備システムの高効率化				W	H			3.4
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)								
集合住宅の評価								3.4
4 効率的運用								
4.1 モニタリング				W	H			
4.2 運用管理体制				W	H			
LR2 資源・マテリアル								3.0
1 水資源保護				W	R			3.0
1.1 節水								3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0
1 雨水利用システム導入の有無								3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無								
2 非再生性資源の使用量削減								3.1
2.1 材料使用量の削減				W	R			2.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W	R			3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W	R			3.0
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				W	R			3.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W	R			2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W	R			4.0
3 汚染物質含有材料の使用回避								3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0
3.2 フロン・ハロンの回避								3.0
1 消火剤				W				-
2 発泡剤(断熱材等)				W				3.0
3 冷媒				W				3.0
LR3 敷地外環境								3.0
1 地球温暖化への配慮				W				3.2
ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物と同等となるよう努めた。								3.2
2 地域環境への配慮								2.5
2.1 大気汚染防止								3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H		2.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制								3.0
1 雨水排水負荷低減					R			3.0
2 汚水処理負荷抑制					R			3.0
3 交通負荷抑制					R			3.0
4 廃棄物処理負荷抑制					R			3.0
3 周辺環境への配慮								3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0
1 騒音								3.0
2 振動								-
3 悪臭								-
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制								3.0
1 風害の抑制								3.0
2 砂塵の抑制								
3 日照阻害の抑制								3.0
3.3 光害の抑制								3.7
1 昼間照明及び屋内照明のつらねに漏れる光への対策								4.0
2 昼間の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0
適切な照度レベル・照度範囲となるよう設置の検討をし、周辺環境に応じ時刻別運用計画をたてた。								0.70
								0.30